

「正義について話をしよう」

拝復 一ヶ月のご無沙汰でした。いったいいつまで続くのか、この暑さ。さすがに 40 度超え



「温暖化とは直接の関係はないのですが、そう思いたくなりますね。」

は聞きませんが。本来、残暑もとっくに終わっているはずですが、大阪府はなんと 15 日連続の酷暑日。東京も酷暑日はありませんが、ヒート・アイランド現象により体感温度は 40 度を超えています。実は無謀にも 8 月の後半、二度もゴルフにチャレンジしてきました。妙に安いですよ。それもそのはず、あまりの暑さにキャンセルが相次いでいるそうです。先週のラウンドでは他のパーティですが、「キャディさんが熱中症で倒れ病院へ搬送」されました。私



「今年大ブレイク、塩分も必要です。」

は約 3 リッターのスポーツドリンクと「男梅」のおかげで無事にすごせました。が、残り 3 ホールは軽く頭痛がしていました。この天候下でのゴルフはスポーツでもなんでもないですね。修行です^^;

さて、今回は前回に引き続き「人はなぜ賭けるのか 後編」と題してお送りする予定でございました。あちこちの文献を当たってびっくりしたことがあります。パチンコ業界が巨大産業であるということです。年間約 30 兆円。日本の GDP の 7% です。実はパチンコ業界は「ゲーム」に分類されていて、ギャンブルのうちに入っていません。日本はギャンブル大国なのです。

と、新事実などをお伝えしようと思ったのですが、先週の金曜日(8 月 27 日)にある衝撃的な講義を直接聴きました。今、哲学の世界を飛び越えてあらゆる人間の生き方について世界中にブ

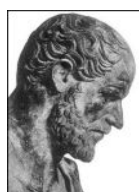
非常に聞きやすい英語でした。ただ大切な部分は同時通訳で→



ームを呼び起こしているマイケル・サンデル ハーバード大学教授その人の講義です。東京大学での講義は新聞その他で報道されましたのでご存知の方も多と思います。今回はこちらをお題とします。衝撃的な講義でした。

サンデル教授はハーバード大学で哲学を教えますが、この「Justice(正義)」は考えられなくらいの人気授業で大学始まって以来初めて一般公開されました。日本でも NHK-BS が深夜に放送をしていました。非常に面白い。教授は過去の哲学者の手法を使って現在のまさにわれわれが直面している話題を取り上げます。

「哲学は、机上の空論では断じてない。金融危機、経済格差、テロ、戦後補償といった、現代世界を覆う無数の困難の奥には、つねにこうした哲学・倫理の問題が潜んでいる。この問題に向き合うことなしには、よい社会をつくり、そこで生きることはできない。アリストテレス、ロック、カント、ベンサム、ミル、ロールズ、そしてノージックといった古今の哲学者たちは、これらにどう取り組んだのだろうか。彼らの考えを吟味することで、見えてくるものがきっとあるはずだ。




だ。



(笑)。


東京大学での講演とは別に、六本木ヒルズアカデミー主催の授業にもぐりこむことが出来たのです。これはものすごい倍率だったようで、当日もヒルズ 49F は受講者でごった返しました。この講義へのチケットはヤフオクでなんと「5 万円」の高値をつけたそうです。もともと無料の講義(授業形式)ですよ。あまりの人気にびっくりでした。



教授の講義はつねに生徒たちとの対話の中で進んでいきます。教授がまず問題を投げかけ、それに対して受講生が自分の考えを発言し、その意見とは違う他の受講生との掛け合いを通じてやがて「大きな問い」へと導いていきます。会場は約 500 名で満員。

最初の問い。  「この講義の受講券がヤフオクで 5 万円の値段をつけていると聞きました。


ところでコンサートでも野球の試合でもダフ屋が必ずいますよね。彼らの行為は許されるのか？ この会場にダフ屋さんから買った人は？ (笑)」ジョークもお上手^^。



会場から  「許されない。彼らの行為は法律にも違反している」  「ここでは法律に違反し



ているかどうかは問題ではない。彼らの行為は正義なのかどうかだ」  「彼らの行為は資本主義の世界では全く問題がない。市場原理にのっとった正当な行動だ」。会場の大半は全く問題のない商行為と言う流れが出来る。

 「では、今、中国では医師が足りず、医師に診てもらえるチケットでダフ屋が蔓延している。彼らの行為はどう？」。私の意見は変わらず、「正当な商行為」。コンサートだと許されることが病院だと許されないと言うのは自己矛盾だ。しかし、会場の多くは  「人道的に許されない」「貧乏人から医療機会が失われる」とのやや感情的な意見が出るが、流れは明らかに「正当


な商行為」である。ここで教授が新たな問いを投げかける。



 「アメリカの医者が年間 5000 ドルを前払いしてくれる患者しか診ない、というコミュニティを立ち上げた。お金を払えばすぐに診てもらえる。入院も検査機器もすべて優先される」この医師が作った商品は正義なのか？


会場は二分。私はすぐに答えが出た「正当」どうも私は市場原理主義者のようだ(笑)。  「医者と言うのは膨大な社会資本である大学や病院を使って資格をもらえる。医者はそうした公的な性格を持っている。ゆえに彼の商品は許されないし、正当化されない」  「医者になるためには個人が多額の授業料（年に 1000 万円！）を払っている。先にリスクテイクをしているのだから彼の商品にはまったく問題がない」ここから議論が白熱。会場同士で様々な意見が闘われた。

 「マドンナ  のコンサートで許されることが、中国の医療現場ではまあ OK、しかし、コンシェルジェドクターには許されない。医療は特別だって言いたい？」ここまでは軽いプロローブでした。結局大方の意見は「これらの三つはすべて同等であり、正当な商行為である」に落ち着いた。私はこの3つとも最初から正当だと思った。中国のケースでは人道的な見地から考えるのであれば、順番待ちの行列を放置するのではなく、医療が必要な順番に患者を精査するのが正しいと考えた。

現実には戦争や大地震ではこの考え方がとられる。助からない者には黒いタグをつける。ぎりぎり助かりそうなものが最優先である。残念ながら手を上げたが私が指名されることはなかった。

 「さて、ここに一人の学生がいる、彼の成績は彼が望む学校に進むには若干足りない。しかし彼の父親が 2000 万ドルの寄付を申し出た。学校はこの学生を受け入れるべきか？」 私は

「受け入れるべき」。多くは拒否的な反応に出た  「そんなことをしたら教育現場がむちゃくちゃになる」（これは根拠がよく分からない^^）、  「その生徒のせいで本来の合格者が不合格になる」「貧乏な家庭の子弟はよい大学へ入れなくなる。」「道義的に許されない」など。

会場から一人の学校関係者らしい人から発言「私は受け入れる。その 2000 万ドルを使って学校の設備を充実させ、優秀な教育者をリクルートする。その上で定員を一人増やして、貧しい家庭の出身者には奨学金制度を作る」最終的な落しどころはここ。  「東京大学の入学者の両親の世帯年収は一般の大学生のそれよりもかなり高い。豊かな家庭に生まれるのは罪か？」

私はもう一つ別の答えを考えていた。「1000人の合格者に寄付金として一人2万ドルを要求する。払えなければ入学は出来ない。ここでも集まるお金は2000万ドル。しかし、2万ドルを支払えない生徒はノーチャンスとなる。であれば、一人の受験者から2000万ドルをとるほうが合理的ではないか。」

残念ながらこれも空振り。手を上げるのだが、指名されるのは一度に二人ないし三人。せつないなあ。ハーバードに留学して教授の授業を受けるしか方法はなさそうです(T_T)。

最後のパートは結構ハード。前の二つの質問はこの問いのためのプレリユードだったのだ。



「バイオテクノロジーの発達で男女の生みわけが可能になっている。受胎後に細胞分裂を始

める前にわかる。「胚」が望まない性であれば着床をしなればいい」会場、医師らしい人🙋「そ

れは中絶につながる」🙋「受胎後ではあるが分裂はしていない。まだ「胚」です」🙋「その

方法の利用は結局金持ちしか使えない」🙋「政府が補助金を出したら？」。

私は大混乱に陥っていた、前の二つの問いに関しては「市場原理主義者」として即答をしていたのだが、手が上がらない。なぜか？考えろ！私は無神論者であり神が7日間で宇宙と人間を作ったなんてこれっぽっちも信じていない（笑）。しかし、そこには人間が踏み入れてはいけない何かがあるような気がしたのだ。われわれのルーツは約150億年前のビッグバンである。



150億年、人間は文明を手に入れたが、哲学は進歩したのか？→




そこから長い年月をかけて単細胞生物から人間として文明を享受するようになった。そこには数限りがない進化と淘汰と戦争の歴史があった。後天的（つまり生まれてから）な病気や怪我について努力をすることには違和感がない。意見の違いはあるが、「臓器移植」についても同様の考えを持っている。

しかし、後天的の対概念である「先天」にまで踏み込むのは正義なのか？そこには踏み込んではいけない何かがあるように感じる。「神への冒瀆」とは考えない、「自然への畏怖」といったほうがしっくり来る。



「あるがままに受け入れなければならない偶発性を尊び、あるがままを受け入れる。それが人間の美德と言うものではないか。あまりに強欲であることは人間としての正義ではない。すなわち、デザイナー・ベイビーは傲慢だと思う」。

ここで時間が来ました。これまでにいろんな授業や講義、セミナーを受けてきたがこれほど集中をして疲労困憊になるまで頭を駆使したことはなかった。楽しかった。

発言者はすべて聴講生。教授はそれをうまくコントロールして、最終的には非常に大きな問いに結び付けていく。この講義が広く受け入れられている理由が分かった。聴講生に考える方法論を教えているのだ。と、ここに来てこの講義が「哲学」であったことに気がつく。様々な問題が普段の生活の中にあふれている。人生は選択の連続だ。正義とは何か。この規範に基づき自分の行動を考えるようにする、哲学の方法論を教えている。それも非常にさりげなく。いつの間にか聴講生の頭脳は「考える」のではなく「考え抜く」というひとつ上のステージに立つことが出来るようになる。正義とは何か、これは人生を生きていくわれわれが常に意識をして正しい(もしくは近い) 選択をするための「way of thinking」(方法論)なのだ。

東京大学の講義ではさらにいろいろな問いがなされたという。

「4人が乗った漂流船、水も食料もない。弱った一人を殺しその血と肉で生還した」許される？

「オバマ大統領は広島と長崎に対して謝罪をするべきだろうか」過去への償いは正しい？

「兄が凶悪犯である、法学部教授の弟は隠れ家を知っているが警察には言わない」許される？

「イチローの年棒は18億円。普通の人の400倍、オバマ大統領の40倍」これはフェア？



「決して意見が一致しないのになぜこんなことを続けるのかと思うかもしれない。しかし、正義について議論することは、私たちの生き方を考えること。それをこの講義以外の外でやらなければ。現代世界を覆う無数の困難の奥には、つねにこうした哲学・倫理の問題が潜んでいる。この問題に向き合うことなしには、よい社会をつくり、そこで生きることはできない」

講義は終了。私は教授に対するすさまじい拍手の凄さにびっくりした。心のどこかが揺れた。いかがでしたか？あの場の興奮をお伝えすることは到底出来ないのですが、これから物事の判断に迷ったら、「サンデル思考法」で立ち止まって考えようと思っています。さ、これからサンデルさんの著作にチャレンジします。言葉は平易だが内容は非常に難解です。流し読みは出来ない。まだまだ暑い日が続くようです。くれぐれも御身大事に。次回は「ギャンブルの王様パチンコ」です。

株式会社アール・リサーチ 代表 柳本信一

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

<http://r-research.co.jp/> ブログ、毎日更新しています→<http://rresearch.blog103.fc2.com/>

ブログ 10 万アクセスを超えました。ありがとうございます。